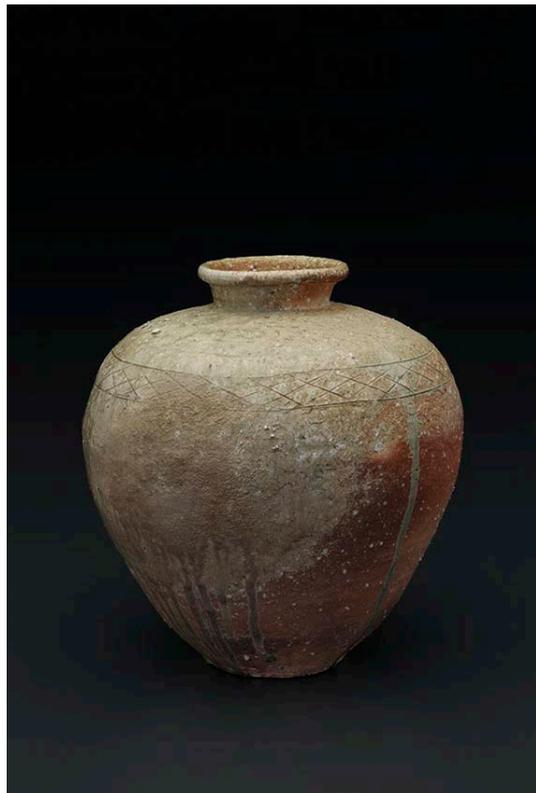


## 谷 穹 展「□□ー□□ うつろ」

2016年6月11日(土)ー7月3日(日)

Galerie Ashiya Schule ギャラリーあしやシューレ

6月11日(土) 夕刻より座談会 レセプション: 17:00~18:30



Galerie Ashiya Schule では、谷穹による個展「□□ー□□ うつろ」を開催致します。

谷穹(b.1977)は、信楽にて製陶業を営む清右衛門陶房に生まれ、成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして研修を積み、現在は中世・室町時代に作られた「古信楽」の探求のもとに作品を制作しています。双胴式穴窯(2007年)、単室式穴窯(2012年)の築窯を経て、2015年にはイッテコイ窯の築窯を完成させ、古来の技法と形を追求してきました。

信楽の焼き物は、鎌倉時代の後半に始まり、室町時代の茶道具、江戸時代の將軍献上茶壺など、時代とともに様々なやきものを生み出してきました。室町時代に茶の湯の世界に取り入れられた信楽の焼き物は、「わび」「さび」といった日本独自の美意識を纏うこととなります。昭和中頃には、古陶磁愛好家によって、中世古信楽の魅力が再認識されることとなりました。

「どれ一つをとっても、見どころのあるのがこの焼き物の特徴で、だから一つ手に入ると病みつきになる。」(白洲正子)

「素朴で、明るくて、花を入れてもいれなくても、いつまで眺めてもあきない」(荒川豊蔵)

「今の僕は、日本のやきものの中で、信楽の壺ほど魅力のある、そして面白いものはないと思うようになっていく」(土門拳)

谷穹は、室町時代に作られた「古信楽」を真似ること、近づくことを目的とするのではなく、古信楽の意味するものに向き合い、そこに生じる問い直し作業を原点として表現を展開しています。

2015年秋、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにおいて、中に『人』の文字が入ると『器』になるという造語「□□ー□□(うつろ)」をテーマに個展を開催しました。「他の信楽にはない、清々しくさわやかな風が吹いている」(中ハシクシゲ)の評にあるように、谷穹はすでに古信楽の一步先を踏み出しているのでしょう。

本展では、人間が直接的には触れることのできない内側の空間を、「幽玄」なる精神性を映し出すものとして提示しながら、谷穹自らの表現行為を試みる展示となります。

時間の経過に晒され、変容する焼き物を通して、存在についての根本的な問いかけを提起する谷穹の世界。

どうぞご期待ください。

うつわの根源をたどると人になる それは人の能力を増幅したり恒久性を与えようとした結果にあるもの  
つまり、手の延長線上に碗や皿がある 人の体には半日分の食料しか貯め置けないために、壺がつけられた  
またそれは、放っておけば土に還ってしまう人をなぜか未来へ送るタイムカプセルともなる

うつわは人そのものだといえる そしてうつわにはその国の歴史が表れている だから、うつわと対峙する  
には対自する能力が必要である 一方向からの偏見は転回することなく、眼は止まったままになる

うつわは常にうつろう だからうつわと出会う時、哲学がはじまる そしてやっと、うつわを使うことが出  
来る 全てのうつわにその効能があるわけではない つくらされたうつわに会いはない

「古信楽」(特に12世紀から15世紀につくられた信楽焼) を再現する技術を追いかけているうちに、日  
本の精神性に出会った そこにはこの国の独自の美観が間違いなく存在する 室町幽玄思想は世阿弥周辺  
だけでなく「古信楽」を生んだ農民(と推測されている人)にも確実に根付いていると感じた この哲学  
に出会わなければ、並ぶことも越えることも出来ない それを追求するうえで、今あるものに言葉を足して  
飾ってはいけない それは転回することを止めてしまうことになる 無自覚につくらされた状態に陥って  
しまう

うつわの内側を奪ってみるとよくわかる そこにはうつわの外側しかない違和感が生ずる うつわは常に  
人の内側にあり、それに対峙する人はいつもうつわの内側にいるのだと気付く だから、うつわには人の魂  
に触れる可能性があるのだ

谷 穹



□プロフィール

- 1977 滋賀県生まれ、祖父は谷清右衛門
- 2000 成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行。
- 2001 北村器山氏の次男北村寿三氏にロクロの指導を、二代目器山氏に穴窯の指導を受ける。その後、家業の清右衛門陶房に入る。
- 2007 中世の信楽に多く見られる双胴式穴窯を築窯し、毎年改良
- 2012 単室式穴窯築窯。

□コレクション

- 2014 信楽 大壺 ポートランド美術館 (アメリカ)

□主な個展

- 2005 「不在庵」ギャラリー陶夢 (滋賀)
- 2006 「小路苑」小路苑 (東京)  
「LAND e SCAPe」成安造形大学ギャラリーアートサイト (滋賀)
- 2007 キュレーターズアイ「LAND Re SCAPe」ギャラリーマロニエ (京都)
- 2008 「Gundaroo」Old Saint Lukes Studio Gallery (オーストラリア)
- 2013 「谷@陶展」ギャラリー陶園 (滋賀)  
「LAND e SCAPe」滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー (滋賀)
- 2015 「LAND e SCAPe」Gallery PARC(京都)  
「□□-□□」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都)

□グループ展

- 2015 「これからの、未来の途中ー美術・工芸・デザインの新鋭 11 人展」京都工芸繊維大学美術工芸資料館

□その他

- 2007 双胴式穴窯 築窯
- 2012 単室式穴窯 築窯
- 2014 「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」
- 2015 イッテコイ窯 築

Press Contacts  
Tel 0797-20-6629  
info@ashiyaschule.com

Galerie Ashiya Schule  
659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11  
Gallery hours :  
金曜日-火曜日 12:30-18:30  
www.ashiyaschule.com

Credits  
信楽甕  
信楽大壺  
□□ - □□ うつろ  
信楽蹲壺  
LAND e SCAPe